



私は薬剤師として働きながら、2人の小学生男子を育てています。5年前の原発事故をきっかけに「このままではイカン!」と奮起。知れば知るほど黙っていられなくなって、

チラシづくりや、福島の子どもの健康についての映画上映会、子連れ歓迎の憲法勉強会の開催などに力を注いできました。(詳しくはこちらを) →
そこで私が伝えたかったことは



『私たち一人一人には政治を動かす力がある!』

ということ。

特に地方政治では、市民の声は大きな力。一人一人の声を最大限に生かすことに貢献していきたい!と強く思っています(具体的には後半で)。つくば市には今よりもっと良くしていけるところがたくさんありますが、まずは取り組んでいきたいことの例を2つ紹介させてください。



◆安心して子育てできるまちに!
～どの子どもも放課後安心して過ごせる環境を～

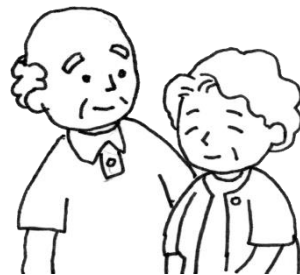


現在、児童クラブで役員をしていますが、つくば市の「公設民営」方式には無理があると感じています。仕事をしながら児童クラブの運営(指導員さんの雇用から様々なトラブル対応まで)も行わなくてはならず本当に大変です。そして、保護者の就労がないと、そもそも門戸が閉ざされています。

おとなり守谷市の「放課後子ども教室」。両親の就労がなくても、誰でも子どもを預けられ、週1回ならば無料。事業者と市が緊密に連携して、とても利用しやすいシステムになっています。必要とするすべての親子に開かれた、放課後の子どもの居場所、あったらいいと思いませんか?

◆年をとっても自分らしく暮らせるまちに!
～地域包括ケアのしくみをホンモノに～

私は製薬会社営業として7年、薬剤師として10年、働いてきました。これから団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、急速に高齢化が進んでいきます。そこで必要となるのが、「最期のときまで自分らしく生活」できるように地域で支え合う【地域包括ケアシステム】。地域ごとに地域包括支援センターを配置し、それぞれの地域の問題や解決策が住民と共有できるしくみを目指します。



医師・看護師・薬剤師・ケアマネージャー・市役所の担当部署などが連携し、高齢者とその家族が、本当に「頼りにできる」システムになるよう、これまでの経験を生かして力を尽くしていきます。

そして、もう1つ。取り組んでいきたい大切なことがあります。



それは、市民参加のしくみをつくるということ。

例えば、

総合運動公園の基本計画にしても、つくば駅前の用地取得（BiVi）にしても、

竹園再構築事業にしても、（築地の移転問題も！オリンピック施設建設費問題も！）

計画の立案段階で当事者の声をもっと反映されていたら。

どんな公園にしたいのか、どんな駅前にしたいのか、住む人の声をもっと届いたら。

学校だって、子どもだけじゃなく地域みんなが利用できる拠点にすることもできるかもしれない。

☆そのために、つくば・市民ネットワークでは、次のようなしくみづくりを目指しています☆

まず知ることから！

事業の立案から決定までに複数回、市民への情報提供を行う。

市民が意見できるしくみをつくる！

特に重要な計画や事業では立案から決定までに複数回、パブリックコメントを募集する。

また、テーマを絞った地区懇談会を開催して市民の意見交換を行い、意見を把握する。

専門家や業者まかせにしない！

審議会の委員を一部、市民から公募する。

つまり！

何をやってるのか、何をするのか教えてほしい。意見を言えるようにしてほしい。
説明できる決定をしてほしいのです。

決まったものをひっくり返すのは、とても大変です。

けれど、計画の段階でいろいろな人の意見が反映できれば、もっともっとみんなが住みやすいつくばに変わっていけるはず。

誰もが「わたしのまち」と感じられるつくばにしたい。

小森谷さやかの決意表明でした！